

評価シート（年度評価）

名城公園の管理運営状況

1 基本情報

<所管局：緑政土木局>

指定管理者名	岩間造園株式会社		
主な業務内容	名城公園の管理運営業務		
施設の所在地	名古屋市北区名城一丁目2-25		
評価対象期間	令和4年4月～令和5年3月	指定管理期間	平成30年4月～令和6年3月

2 評価結果

評価項目			評価区分	特記事項
管理体制 及び協働	1 管理体制	職員配置	○	ボランティア団体と協働して花の手入れや園内の維持管理作業を定期的に実施した。 学生主体のイベントの支援や、職場体験、インターンシップの受け入れなど学生との協働に努めた。
		緊急時の体制	○	
		人材育成等	○	
	2 協働	市民等との協働	◎	
維持・管理 運営等	1 維持管理	園内清掃	◎	ボランティア団体とも協働し、除草、落葉清掃をこまめに行い、ランナーを始めとした公園利用者が安全・快適に利用できる園内環境の維持に努めた。 公園利用者の安全性の向上を図るため、園内及び園路沿いに多くある高木の支障枝剪定や枯死木撤去を実施し、視覚的透過性を高めるため、低木刈込を重点的に実施した。 花の配色や配置を工夫し、こまめな水やり、施肥、花がら摘み、除草等の質の高い花壇管理により、一年中美しい花が楽しめた。
		建物・設備の管理	○	
		保守・点検・修繕	○	
		植物管理	◎	
		管理水準の維持	○	
		関係書類の調製・保管	○	
	2 運営管理	利用者アンケートの実施	○	会館内トイレについて、要望に基づき女子トイレの洋式化、トイレシートクリーナーの設置を行い、また、傘やストック（杖）、車いすの無料貸し出しなど、サービス向上に取り組んだ。 多くの野鳥の飛来、営巣による糞害に対し、清掃を行うとともに、注意喚起の看板を設置するなど丁寧に対応した。
		利用者ニーズの把握と反映	○	
		利用者サービス向上策	◎	
		接客・接客向上の取組み	○	
		苦情・要望に対する適切な処理	◎	
		個人情報の適切な管理	○	
	3 この施設特有の管理	緑の普及・啓発事業への取組み	○	見通しをよくするため菖蒲園周辺に防草シートを張り、また、ランナーが景色を楽しみながら安全に走ることができるよう剪定を行うなど、魅力を高める工夫を行った。 展示会は、伝統文化を伝えるものや花に関するもの、また新たなものも取り入れ仕様書の回数を超えて22回開催し、フラワープラザ来館者が楽しめる空間を提供した。
		めざす公園像への取組み	○	
	4 魅力増進・利用促進	魅力の増進策	◎	
		イベント等の実施	◎	
		講習会等の実施	○	
		利用者への広報・情報提供の実施	○	
		利用者数の増加	○	
自主事業	1 自主事業	事業計画に基づく自主事業の実施	○	喫茶は来客が増え売り上げも前年度を3割近く上回り、生花販売は公園利用者に好評で、集客に貢献した。 犬連れの方のマナー啓発を取り入れたWan Wonder FESイベントを実施し、賑わいにつながった。
		集客対策への効果	◎	
		自主事業の収支及び還元	○	
収支	1 収支	経費節減策	○	
		年間収支	○	
その他	1 その他	法令・協定の遵守	○	
		事業計画との比較分析	○	

【総合評価】

ボランティア団体と協働して、花の手入れ、園内の清掃、落葉清掃、除草を頻度高く実施した。花壇の手入れが行き届き、一年を通して四季折々の美しい花があふれる公園となった。
利用者の安全を第一に園路補修や剪定を実施し、トイレの洋式化・クリーナーの設置など、利用者サービスの向上に取り組んだ。
フラワープラザにおいても展示会、講習会を頻度高く実施し、自主事業における喫茶、生花販売は公園利用者に好評で、特に喫茶は売り上げも伸びた。

施設の現状

名城公園

施設の現状	施設概要							
	名古屋城天守閣の眼下に広がる名城公園は、終戦後いち早く名古屋市の中心部における総合公園として計画決定され、その整備が行われてきました。「せせらぎ」の流れる芝生広場を中心に、おふけ池、野外ステージ、花木園、子どもの広場、花の道(ランニングコース)、有料公園施設である野球場があり、多目的に利用されています。 名城公園内にある名城公園フラワープラザは、「第6回全国都市緑化なごやフェア」(愛称「緑・花・祭なごや'88」)の記念施設として、また、都市の生活の中にとりいれる花の知識・技術等をひろめる普及啓発施設として、昭和63年9月30日の同フェア開催と同時に開館しました。敷地内のモデルガーデンや室内花壇には、草花・ハーブ等が植栽されています。館内は、花を中心にした展示・講習会が開催され、花の普及啓発施設、喫茶コーナーなどの便益施設として利用されています。							
	市の収支状況(千円) (4年度決算見込み額)							
	支出			収入				
	指定管理料	その他	計	使用料	その他特定財源	一般財源	計	利用料金
	115,528	-	115,528	922	-	114,606	115,528	-
	特記事項							
	指定管理区域を、平成30年度から名城公園(北園)に拡大							
管理運営指標の状況	取組状況							
	指標			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	講習会受講者数			人	1,003	527	608	796
	緑化相談者数			人	490	138	38	17
	入館者数			人	263,129	174,828	156,160	172,834
	特記事項							

※支出のうち「その他」欄は、経常修繕費を記載

評価シート（指定期間を通じた評価）

名城公園における指定管理者の管理運営実績

1 基本情報

<所管局：緑政土木局>

指定管理者	岩間造園株式会社		
主な業務内容	名城公園の管理運営業務		
評価対象期間	平成30年4月～令和5年3月	指定管理期間	平成30年4月～令和6年3月

2 管理運営状況（評価結果の推移）

評価項目		評価区分					特記事項
1 管理体制及び協働		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	【30年度】園内清掃、巡回、作業をまとめて直営スタッフが行える体制とした。各種ボランティアや近隣施設と協働し、花壇管理やイベントを実施した。 【元年度】各種ボランティア活動や中学校の職場体験を実施し、地域と協働して積極的に活動している。 【2年度】丁寧な利用者案内を行うために、休館日にも対応職員を配置している。本部職員等による現場確認を通して、現地スタッフでは気づきにくい箇所の指摘・改善を行った。関係施設や地域団体との会議で情報交換を行っている。愛知学院大学の講師として交流している。トナリノと連携して事業を組み立てている。ボランティアと協働して維持管理作業を実施している。 【3年度】休館日にも対応職員を配置して問い合わせ・公園利用者対応ができるようにしている。3つのボランティア団体と協働して花の手入れや園内の維持管理作業を細やかに実施している。隣接大学の学生とも協働し、学生が主体的に活動する場となっている。新たに下水道科学館と連携し、スタンプラリー・クイズラリーを実施した。その他、ベンチの寄付や、スポンサー花壇の受入れなどに伴う調整を協力的な姿勢で取り組んだ。 【4年度】ボランティア団体と協働して花の手入れや園内の維持管理作業を定期的に実施した。学生主体のイベントの支援や、職場体験、インターンシップの受け入れなど学生との協働に努めた。
職員配置						○	
緊急時の体制						○	
人材育成等		○	○	◎	○	○	
市民等との協働						◎	
2 維持管理		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	【30年度】高木の樹高抑制を積極的に行い、適切な樹形になるよう努めた。また、台風時の応急対応を迅速に行った。 【元年度】季節ごとに花壇の品種や色合いを工夫したり、剪定や刈込等により見通しを確保することにより魅力のある景観を作っている。劣化施設の放置や園路上に枝を放置するなど、施設管理や安全管理に課題がある。 【2年度】公園灯の点滅や、遊具の点検結果など、事故ではないが市がすぐ知っていたほうがいい施設の不良箇所について適切に報告を行った。来園者が楽しめるように四季折々の植え替えを行い、季節に合わせた演出を行った。低木を見通しの確保のために低く刈込みし美観の形成をしている。蓮の植え付け等特性に合わせた植栽管理がされている。 【3年度】多数の鳥の糞による悪臭・汚れの清掃、台風後の特別園内清掃、側溝・排水樹の清掃等職員が適宜実施している。多くの施設が老朽化している中、優先順位をつけて修繕を実施。フェンス修繕・タイル隆起部分修繕やせせらぎ排水管の入れ替え等緊急性の高いものは速やかに実施した。高木剪定・低木刈込は安全面を重視して優先して実施した。会館周辺を始めとする多くの花壇を丁寧に管理し、四季折々の花が楽しめる。低木は常に低く刈込し、見通しもよく優れた美観を保っている。 【4年度】ボランティア団体とも協働し、除草、落葉清掃をこまめに行い、ランナーを始めとした公園利用者が安全・快適に利用できる園内環境の維持に努めた。公園利用者の安全性の向上を図るため、園内及び園路沿いに多くある高木の支障枝剪定や枯死木撤去を実施し、視覚的透過性を高めるため、低木刈込を重点的に実施した。花の配色や配置を工夫し、こまめな水やり、施肥、花がら摘み、除草等の質の高い花壇管理により、一年中美しい花が楽しめた。
園内清掃						◎	
建物・設備の管理						○	
保守・点検・修繕						○	
植物管理		○	○	○	○	◎	
管理水準の維持						○	
関係書類の調製・保管						○	

3 運営管理	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	【30年度】イベント時のアンケートの他、開催してほしいイベントについての調査を行うなど、積極的にニーズの把握に努めた。イベントや講習会の開催時に、夜間の供用延長を実施するなど、仕事帰りに立ち寄れるよう工夫が見られた。 【元年度】イベント開催時にアンケートを実施している。夜間の供用延長を実施し、サービス向上の取り組みを実施している。 【2年度】区域によって管理者が異なり案内が複雑な名城公園において、案内マップに他の区域の情報を入れたり、公園利用者に丁寧に説明するなど、適切な対応を行った。放置物件について、関係各所と情報共有しながら適切に対応した。 【3年度】市の整備工事や、県体育館移設に伴う撤去工事の影響で使えなくなる施設や区域について、関係各所からの情報を把握し、変更案内や予約受付の停止などについて事前に利用者に周知し混乱のないよう努めた。また、変更等が進む中、利用者目線で必要な措置・対策（ランニングコースの距離表示、擁壁の転落防止柵の設置等）を市に報告し、協力して対応した。花見の時期は宴会の自粛を求める必要があり、立ち入り禁止区域の設置や花見のマナー看板の設置、警備員による巡回を行った。傘、杖、車いすの無料貸し出しを実施して喜ばれている。 【4年度】会館内トイレについて、要望に基づき女子トイレの洋式化、トイレシートクリーナーの設置を行い、また、傘やストック（杖）、車いすの無料貸し出しを実施し、サービス向上を図った。多くの野鳥の飛来、営巣による糞害に対し、清掃を行うとともに、注意喚起の看板を設置するなど丁寧に対応した。
利用者アンケートの実施					○	
利用者ニーズの把握と反映					○	
利用者サービス向上策					◎	
接客・接遇向上の取り組み	○	○	○	◎	○	
苦情・要望に対する適切な処理					◎	
個人情報の適切な管理					○	
4 この施設特有の管理	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	【30年度】「緑・花・祭なごや'88」から30年を記念したイベントを開催した。定例イベントである「梅まつり」時に、夜間の供用時間延長や梅酒の提供をするなど、新たな試みを実施した。 【元年度】昨年に引き続き、梅まつり時に夜間の供用延長をしたり、「The CHOYA Caf 名城」で梅酒の提供など魅力増進のイベントを実施している。また、中国人人気が高いことから、チラシに中国語を併記した。いけばなを始め様々な展示会や講習会を実施している。来館者数は前年度比11.4%（入館者数263,129人）。 【2年度】農水省の補助金事業により多くの花飾りを設置した。フラワープラザ内などに季節に応じた装飾・植栽を行っている。朝顔まつりや梅まつりを中止とせず展示会等に組み直すなど、工夫して実施した。 【3年度】みどりのトンネルやバラのアーチ、公園入口から三角プランターなどに連続して花をたくさん咲かせ、歩きたくなる公園の演出をした。車いす・高齢の方でも手入れがしやすい高くなっている花壇（レイズドベッド）を新たに整備し、ボランティアに参加してもらいやすい工夫をした。花菖蒲園の整備をさらに進め、おふけ池の景観向上を図った。コロナの感染対策を行いながら、内容も変更するなど調整して各種イベント・講習会を実施した。雑誌やウェブサイトなど多数の広報媒体に情報提供し、ホームページのリニューアルも実施。インスタグラム・フェイスブックは毎日最低1投稿を実施している。 【4年度】見通しをよくするため菖蒲園周辺に防草シートを張り、また、ランナーが景色を楽しみながら安全に走ることができるよう剪定を行うなど、魅力を高める工夫を行った。展示会は、伝統文化を伝えるものや花に関するもの、また新たなものも取り入れ仕様書の回数を超えて22回開催し、フラワープラザ来館者が楽しめる空間を提供した。
緑の普及・啓発事業への取り組み					○	
めざす公園像への取り組み					○	
5 魅力増進・利用促進						
魅力の増進策	○	○	○	○	◎	
イベント等の実施					◎	
講習会等の実施					○	
利用者への広報・情報提供の実施					○	
利用者数の増加					○	
6 自主事業	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	【30年度】新規自主事業イベントを積極的に企画し、実施している。今年度より拡大した区域の活用や、新たなイベントの提案など、サービス向上を図ろうという積極的な姿勢が見られる。 【元年度】新規イベント（「名城公園子どもまつり」や「熱気球搭乗体験」）を積極的に実施している。 【2年度】「都会の森で遊ぼう」や「ソーシャルディスタンスを楽しもう」など工夫したテーマで催事を実施した。 【3年度】新規イベント・イベント内容の充実を様々な検討する上で市と適切に調整し、都会の森で遊ぼうのGo Green Market、わくわく花火DAY、サバイバル・キャンプなど新たなイベントを実施し、名城公園の魅力を倍加させた。喫茶店でテイクアウト商品（かき氷、焼き芋）を新たに提供することにより利用者の選択の幅を広げた。令和4年度からの自主事業での新設駐車場の管理運営に向け、市と綿密な調整を行った。 【4年度】喫茶は来客が増え、売り上げも前年度を3割近く上回り、集客に貢献した。犬連れの方のマナー啓発を取り入れたWan Wonder FESイベントを実施し、賑わいにつながった。
事業計画に基づく自主事業の実施					○	
集客対策への効果	◎	◎	○	○	◎	
自主事業の収支及び還元					○	

7 収支	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	【30年度】公園灯の一部をLED化するなど、経費節減を図った。 【元年度】照明のLED化や電力会社の変更により経費の削減に努めた。
経費節減策	○	○	○	○	○	
年間収支					○	
8 その他	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	
法令・協定の遵守	○	○	○	○	○	
事業計画との比較分析					○	

年度ごとの総合評価（所管局のコメント・特記事項等）	
平成30年度	樹木を含めた植物の管理や、施設・設備の改修・補修が適切に行われ、良好な管理運営がなされている点が評価できる。今後、市と協議しながら樹木の間伐による密度管理を検討して欲しい。 企業・団体等の連携・協力による各種の催しのほか、自主事業を工夫しながら積極的に企画・実施し、公園の活性化に寄与している。公園の利活用を一層推進しようとする意欲が感じられ、今後が期待される。 隣接する営業施設との連携によるランニングの名所づくりに着実に取り組んでいるが、来館者が減少しているため、さらに連携した取り組みや空間をつなげる工夫が必要である。また、プラザ周辺だけでなく花の名所づくりなどにも取り組んで欲しい。
令和元年度	イベントや講座の開催等に加え、公園らしさが楽しめるよう、花の名所づくりを園内各所で計画的に展開したり、花壇を充実させるなど、公園本来の魅力を向上させたりすることにより来園者から好評を得ている。その成果として来園者数が増加したことは高く評価したい。 また、ランニングの名所づくりに着実に取り組んでいることも評価できる。 今後は、自主サークル等による屋外における軽運動などのアクティビティを誘発させるような利用増進策を講じていくことも必要であると考えます。 低木の刈込、大木の間引き伐採、落枝防止管理も計画的に進めており、残りの指定管理期間の展望・見通しがしっかりしている点は評価できる。 一方、園全体の工作物管理、除草清掃などの基本的な管理が少し疎かになっていた。来園者に気持ちよく利用していただくために、何に重点的に取り組むかについて市と協議し、順次改善していく必要がある。
令和2年度	コロナ禍で高まっているガーデニングニーズに的確に対応しながら、企画や商品販売（切り花、苗など）を行うなど工夫することにより催事等に想定以上の参加者を集めたことは評価できる。植物管理においては、高木の下枝せん定と中低木の刈込を実施することにより見通しを確保したり、季節の変化を花・植物で感じられるよう工夫したりするなど、来園者に喜ばれるものになっている。 当初の企画提案で掲げたビュースポットの再生など公園の魅力増進策や、老高木の管理について達成状況を数値化しつつ着実に推進している状況がうかがえる。引き続き、提案で掲げた「ビュースポットの再生」、「名所づくり」、「ジョギングコースの環境整備」等に尽力されたい。 なお、講習会と展示会については、内容が固定化している傾向がみられるので、都心に立地する公園として、多様な公園利用者に対応する企画、展示を考えてほしい。
令和3年度	様々な感染症対策を行い、都心の公園として、利用者のニーズに合わせた展示会、講習会、Go Green Marketなど新たなイベントを開催し、利用者サービスの向上に努めていることは評価できる。 植物管理においては、美しい景観スポットを生かした維持管理や、緑のトンネルなどの一息つける場所づくりなど、来園者の期待に応えた公園づくりに取り組んでいる。引き続き、ビュースポットの再生や名所づくりに尽力されたい。 植物管理・園内管理に年間延べ500人以上のボランティアが活動しており、今後さらに多くのボランティアの参加により花と緑が増えることを期待する。 見通しの確保を目的とした高木の下枝剪定と中低木の刈込も継続されたい。
令和4年度	ボランティア団体と協働して、花の手入れ、園内の清掃、落葉清掃、除草を頻度高く実施した。花壇の手入れが行き届き、一年を通して四季折々の美しい花があふれる公園となった。 利用者の安全を第一に園路補修や剪定を実施し、トイレの洋式化・クリーナーの設置など、利用者サービスの向上に努めた。 フラワープラザにおいても展示会、講習会も頻度高く実施し、自主事業における喫茶、生花販売は公園利用者に好評で、特に喫茶は売り上げも伸びた。

3 利用状況等

具体的な取り組みや成果等
指定期間を通して、ランナー・犬・防災に関するものなど幅広い分野のイベントを実施した。多くの場所がフोटスポットとなるよう美しい花壇づくりに努め、自らもSNSで頻度高く発信することにより、来園者増に努めた。 《入館者数》平成30年度：226,009人 令和元年度：263,129人 令和2年度：174,828人 令和3年度：156,160人 令和4年度：172,834人

4 収支状況等

具体的な取り組みや成果等
施設が老朽化する中、突然の不具合対応で修繕にかかる費用が増大する年があったが、予算の組み替えを行うなどして、必要な修繕を行った。

5 利用者の意見や満足度等

利用者の意見や満足度等の内容・推移

「植物管理」「施設の清潔さ美観」についてのアンケートでは、「とても良い・大変満足」の割合が下がってきているが、常に「大変よい・満足」と「よい・満足」合わせて9割を超えている。また、個別の意見では指定期間を通じて「花がきれい」という意見が多い。

6 総合評価

所管局のコメント・特記事項等

指定期間初年度に、全国都市緑化なごやフェア開催から30年を記念して、周辺施設や企業の協力を集め様々なイベントを実施したことは高く評価する。

指定期間中、愛知県体育館の移転工事が始まり、名城プール・自転車天国の廃止、ジョギングコースの変更、新たな駐車場の管理開始など、状況が様々変化する中、現地対応及び市民対応を責任を持って行った。

老朽化により、施設の不具合が毎年のように生じたが、市と協力して対応に当たった。